

北條民雄と尾田と佐柄木

「いのちの初夜」を説いたときの

感動の正体を

自分なりに「探った山」など、

北條民雄の人となりや

作品の魅力を紹介します。

会期 阿南市文化三館 視聴覚室

日 令和7年12月1日(月)

14時30分～16時

講師 計盛達也

北條民雄顕彰文化事業

北條民雄（はうじゆうたけ）

徳島出身の小説家。ハンセン病となり隔離生活を余儀なくされながら、自身の体験に基づく作品「いのちの初夜」などを遺した。1914年9月、日本統治時代の朝鮮の首都京城（現・ソウル）に生まれる。生徒間もなく母親と死別し、徳島県阿南市下大野町に育つ。1934年、東京府北多摩郡草村山村の全生園に入院。入園後、創作を開始した。川端康成に書簡を送って草稿の授けを乞い、以降は川端に師事する。1936年、「いのちの初夜」により第2回文学界賞を受賞。第3回芥川賞の候補にもなった。その他に「麻家魚」、「麻院受胎」、「望郷歌」などの作品を書いたが、1937年に肺結核のため死去。23歳没。

2014年に阿南市及び阿南市文化協会の尽力により、当会発行の「阿南市の先覚者たち第1集」において、実名と生지가公表された「民雄 ー北條民雄をしのぶ会」が、2019年12月7日に阿南市と徳島文学協会の主催で初開催された。現在は阿南市文化会館主催で、毎日の12月5日に、多彩なゲストを迎えて行われている。

本年は12月5日（金）19時より阿南市文化会館ホールにて開催（入場無料、申込不要）。

<プロフィール>

計盛達也（かずもり たつや）

1983年、阿南市生まれ。大学卒業後、編集プロダクションで編集のノウハウを学び、2010年に徳島県立文学書道館に就職。文学特別展「北條民雄ーいのちを見つめた作家」（2014年）、「吉村萬巻ー意味のない美しい夢」（2017年）などを担当し、2025年退職。その他「三田文学」（2015年夏季号）にエッセイ「文学特別展「北條民雄ーいのちを見つめた作家」を開催して」を寄稿。読談社文芸文庫「北條民雄 小説随筆書簡集」の年譜を担当した。

入場無料 申込不要

* 理事会後に開催します。諸事の進行により講演会開始が多少遅れる場合があります

北條民雄顕彰碑建立への募金お願い

阿南市文化協会30周年記念事業として、郷土の偉人「北條民雄」の顕彰碑を建立致します。民雄は1936年ハンセン病治療中の22歳に発表した「いのちの初夜」で「文学界賞」を受賞し天才作家と評されています。民雄は望郷の念を深くしながらも多摩全生園にて23歳で天折しております。民雄の命の最期を強烈に訴え多くの文学作品に敬慕を表し、民雄を再入道に顕彰碑を建たいと思います。

募金受付先 阿南市文化協会 本店 電話 0444-732 阿南市文化協会 会長小原康典様
郵便振込 01670-1-133951 阿南市文化協会

阿南市文化協会

〒774-0003 阿南市富岡町西池335-1

☎070-3794-2453